いまどきの歴史

新聞をななめ読み、
週刊誌を読み飛ばし、
倍速モードでニュースを見れば、
よくわかる、すぐわかる、最近の歴史。

【事件】

毒ガスが自然発生するなんて……
日本人の無知を示した松本毒ガス事件

欧米人は自分の命は自分で守るという意識を必ずもっているらしいが、たいていの日本人は自分の命が突然失われる可能性が日常にもあることを、夢かドラマの世界のように思っている。

そんな日本人のトボけた意識を現実に戻してくれたのが、長野県松本市で起こった「毒ガス事件」。田舎の閑静な住宅街で、瞬時に7人もの命を奪い、200人余りの被害者を出した、あの毒ガス中毒事件である。

この事件の原因は、ナチスドイツが研究開発した「サリン」という青酸カリの500倍もの毒性をもつガスによるものいわれている。これはイラン・イラク戦争にも使用された毒ガス兵器らしいが、驚くことは薬学部の学生レベルでも、入手し易い薬品でそれほど難なく調合できてしまうということだ。

しかし、この事件で最も驚くべきことは、一瞬にしてこれだけの死傷者がでたにもかかわらず、付近の住民は毒ガスが自然発生したものと信じていたことである。いくら自然が恐ろしくても人間の居住区に突然毒ガスが発生したという話は今まで聞いたことがない。

一般にいわれる毒ガスの大半が人為的に造られていることすら、今の日本人は常識として知らないのだろうか?

【科学】

常識が変化をするものならば
やわらか頭は必要不可欠

人間の常識は歴史とともに移り変わるという言葉があるが、バイオ技術の進歩は歴史の流れより早く人間の常識を変えてしまうのだろうか。

たとえば、トマトは皮が柔らかい野菜なので、機械では収穫できず、直接手で収穫するといったナイーブな扱いが必要という常識がある。

しかし、アメリカの植物バイオ・ベンチャー社、カルジーン社はトマトの皮を柔らかくする酵素を遺伝子操作で柔らかくなりにくくし、真っ赤に熟した状態でも機械でどんどん収穫できる『フレバートマト』を開発したという。もちろん、このトマトは遺伝子操作をしたといっても、畑で自然に収穫できるものなので、太陽の恵みを受けた自然な味が保たれているらしい。そして、皮の硬度が増した分、日持ちが良くなっているというのだ。

現在、トマトは簡単に握り潰せるものという常識があるが、近い将来トマトはキャッチボールができてしまうほど、ハードな皮をもつという常識に変わる可能性があるのだ。

社会生活を営んでいると、得てして常識に囚われ過ぎてしまう傾向にあるが、常識を越えたやわらか頭がこれからの時代は益々必要になるだろう。

もうかって笑いは止まらんが、そう全部ウマくいくとも限らない。

【モータースポーツ】

「ノーと言えるイギリス人」と古舘伊知郎は言ったんだがなぁ

前に紹介したように天才ドライバー、アイルトン・セナの事故死によって、さらに深刻な問題となっている。

そういった人気低迷の挽回を図るため、F1の興行関係者は、一昨年引退したF1の人気者ナイジェル・マンセルを急遽フランスGPで復活させた。結果はマシントラブルでリタイヤしたが、この復活劇で一番興味を引いた話題はレースよりも、マンセルがマシンに乗るまでの交渉であった。

それは、せっかくF1を引退してホッとしていたマンセルの奥方が、再び危険なF1マシンに乗せたくないと、「1レースに100万ドル払うなら…」という法外な条件提示をしたというのである。F1の1レースは3日間。つまり、3日間で約1億円を要求したのだ。これだけムチャな交渉をすれば諦めると思ったのだろうが、興行者サイドはなんとかこの条件をクリアして今回の復活となったらしい。

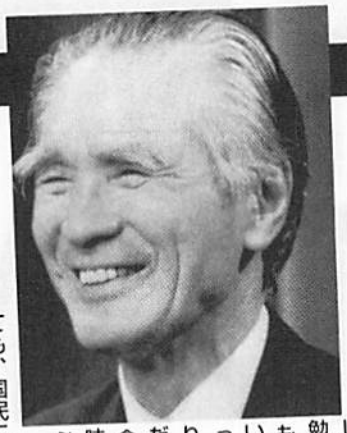
だが本番のレースは、金につられて勝てるほど甘い世界ではないことを実証した結果となり、興行者が描いた人気回復はまだまだ遠いようだ。

Cランチ価格未定

いまどきの

【政治】

角サンが草葉の陰で泣いている!?
日替わり内閣に田中眞紀子待望論



Bランチ93円

Aランチ160円

政治用語には、もともと一般の国民にわかり難いものが多い。だが、最近よく用いられている『連立与党』ほど、国民に理解されない言葉はないだろう。

現在の連立与党とは、まさに食堂の日替わり定食。その内容は日々変化し、味や質よりも中身の量がその決め手。国民も毎度入れ替わるメニューのせいか、今日のメニューすら食べてみるまでわからない状態。こんな政局を繰り返しているものだから、日本で最も政治を勉強している受験生たちまで「各大臣はもとより首相の名前すら知らない」という社会現象さえ当たり前となってしまった。今の国民は、こういった日替わり定食を無理やり食べさせられているのだが、日本の情勢を考えると日替わり定食をのんびり食べている余裕などない。味の濃い、質の高いメインディッシュが必要なのである。

まぁ、そんな偉そうなことを叫んで見ても、国民には何もできないのが日本の政治システム。現状で期待できるのは、定食の中でも異質の味を持っている、田中眞紀子議員の父親譲りの政治能力と男勝りの度胸だろう。

いまの日本の政治家は、日替わり定食のようにたむろし、「男は愛嬌、女は度胸」が当たり前。全く情けない!

【社会現象】

ボヤく上司より文部省?
漢字能力検定試験の人気

昔は「こんな漢字も知らんのか!」とボヤく上司はどこにでもいたもんだが、ワープロの普及とともに彼らの姿を見るものはいなくなった。

しかし、普段活字を読まなくなった世代がワープロを使っているものだから、変換して出てくる同音語の漢字の選択ができない人が意外と多い。ようするにワープロで漢字を打ち出すことはできても、漢字を知らない人は一向に減っていないのだ。

昔ならここで上司が登場する訳だが、今は漢字検定という資格でその部分を補いはじめたという。受験システムで育ったワープロ世代は、上司のおこごとを聞きながら学ぶより、検定という形で漢字の勉強をするほうが効果があるというのだ。

この日本漢字能力検定試験は1975年から実施されており、1992年から英検などと同じ文部省認定資格の一つとなったことから、こういった現象に拍車がかかったらしい。今年6月の志願者も個人・団体受験を合わせて、すでに14万人と昨年の第一回目の志願者9万人を大きく上回っている。

これからはもしかすると、漢字検定何級の能力がなければ、ワープロが使えないなんて時代が来るかもしれない。

【流行】

つきあう相手の素性は知っておけ
『天然水』もピンからキリまで

エビアンホルダーを胸に下げた少年たちが街角から消えると、「水を飲むこと」は水道水を飲むことではなくなり、健康志向の高まりに便乗して『ミネラルウォーター』を飲むことが一般でも常識となっている。

だから"六甲のおいしい水""南アルプス天然水"をはじめ、"ボルビック""バルベール"など外国からも続々とミネラルウォーターが進出し、今やミネラルウォーター市場は大盛況。自然で美味しい水は、今やなくてはならない生活のアイテムとなっている。

だが、こういった水は本当に良い水なのだろうか。いまの日本には明確な規定がなく、水の成分は商品によってバラバラ。たとえ明確な成分表示をしてあっても、水道水がどんな成分なのかを知らないので、何を基準に良い水と判断していいのか見当もつかない。

たぶん今のミネラルウォーター志向者の多くは、CMなどによるイメージ先行型だろうが、これだけは知ってもらいたい。商品の中には、成分が水道水以下のモノも存在することを…。

本当に健康志向でミネラルウォーターを飲むならば、まずは水道局に問い合わせて水道水の成分を知り、良い水の基準を知ることから始めてほしい。

本格派西洋占いショップ

■マダム セイラの神秘タロット占い
■マダム セイラの細密ホロスコープ占い
■コンピュータ占い各種
■世界のタロットカード
■占いと魔術の専門書籍
■パワーストーン

—小さな占い研究所—
ミステリーアート
河原町三条下ルBALビル北側東入ル80m
TEL075・256・4636　営業時間14:00〜22:00